

- 1 落石地区 直轄特定漁港漁場整備事業
- 2 歯舞地区 直轄特定漁港漁場整備事業

期中の評価(再評価)原案準備書

令和5年度  
北海道開発局

## 事後評価書（期中の評価）

都道府県名	北海道	関係市町村	<small>根室市</small> 根室市	期中評価実施の理由	④
-------	-----	-------	---------------------------	-----------	---

事業名	直轄特定漁港漁場整備事業（直轄漁港整備事業）				
地区名	<small>オホシロ</small> 落石	事業主体	国（北海道開発局）		

### I 基本事項

1. 地区概要			
漁港名（種別）	落石漁港（第3種）	漁場名	—
陸揚金額	2,959 百万円	陸揚量	5,999 トン
登録漁船隻数	211 隻	利用漁船隻数	220 隻
主な漁業種類	定置網、採藻、タコかご、イカ釣り	主な魚種	サケ、コンブ、タコ、イカ
漁業経営体数	131 経営体	組合員数	136 人
地区の特徴	落石漁港（落石地区・浜松地区・昆布盛地区）は、北海道東部根室半島の基部に位置し、サケ定置網、採藻、タコかご等の沿岸漁業の流通拠点、周辺海域で操業する外来漁船の陸揚基地として、重要な役割を担っている。		
2. 事業概要			
事業目的	根室西部圏域の流通拠点漁港として、防波堤等の整備により、近年の津波などによる施設災害を未然に防止するための防災対策の強化を図る。また、係留施設等の整備により、外来船の受入体制の強化、陸揚作業の効率化を図る。さらに、屋根付き岸壁等の整備により、陸揚作業等の就労環境改善及び衛生管理体制を推進する。		
主要工事計画	<b>【落石地区】</b> 西防波堤（改良）1式、-5.5m岸壁200.3m、 -4.0m岸壁（改良）275.0m、道路（改良）（法面）1式 <b>【浜松地区】</b> 道路（改良）420.0m <b>【昆布盛地区】</b> 東防波堤20.0m、-3.5m岸壁60.0m ほか		
事業費	16,768百万円	事業期間	平成28年度～令和12年度
既投資事業費	4,459百万円	事業進捗率(%)	27%

### II 点検項目

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化			
	直前の評価	今回の評価	※別紙「費用対効果分析集計表」のとおり
総費用（千円）	8,546,316	15,149,304	
総便益（千円）	10,341,696	19,753,965	
費用便益費(B/C)	1.21	1.30	
総費用の変更の理由			
落石地区について、-5.5m岸壁は大型漁船に対応した岸壁を新たに整備、道路（改良）（法面）は道路の法面崩落対策を見直した。昆布盛地区の拡張部について、海岸擁壁・護岸の撤去による道路の追加等、用地を見直した。以上により、事業費の見直しを行った結果、総費用が増加した。			
便益算定項目について変更がある場合はその項目と変更の理由			
落石地区について、-5.5m岸壁整備による準備作業時間の短縮や漁船損傷被害の回避効果等、さらに、道路（改良）（法面）の法面崩落対策による民家への被害回避の効果の便益を計上した。また、全体便益として、労務単価や漁船建造費等の基礎データ更新により便益が増加した。			
その他費用対効果分析に係る要因の変化			
サンマ棒受網漁船の準備・休憩岸壁整備や昆布盛地区の漁港拡張整備について、施工期間や地元利用者との調整により、事業完了年度を変更（平成37年度→令和12年度）した。			

<b>2. 漁業情勢、社会経済情勢の変化</b>	
<b>(1) 漁業情勢及び漁港施設、漁場施設等の利用状況と将来見通し</b>	
	<p>計画策定後の漁業集落に関わる社会経済状況、自然状況の当初想定との相違と将来見通し</p> <p>漁港利用漁業者数は、高齢化に伴う廃業等により減少傾向はみられるものの、地域の取組もあり後継者も確保されていることから、今後も同程度に推移すると見込まれる。</p>
	<p>漁業形態、流通形態について当初想定との相違と将来見通し</p> <p>落石漁業協同組合では、安全・安心な水産物の供給を図るため、衛生管理対策の強化とともに、3地区連携による効率的な漁業活動を推進しており、今後も安定的な漁家経営が見込まれる。</p>
	<p>漁港施設等の利用状況について当初想定との相違と将来見通し</p> <p>組合員数が減少傾向にあるものの、改正漁業法により大型化に移行するサンマ棒受け網漁船が平成29年、令和4年に各1隻ずつ新造され、今後も安定的な利用が見込まれる。</p>
<b>(2) その他社会情勢の変化</b>	
	<p>特になし</p>
<b>3. 事業の進捗状況</b>	
	<p>令和4年度までに、落石地区の防災減災対策として耐震強化岸壁の整備や突堤・防波堤の嵩上げにより、港内静穏度対策が図られている。また、浜松地区の係留機能強化に向けた漁港拡張等の整備を進めており、事業の進捗率は27%である。残事業として、落石地区の衛生管理対策や津波対策、昆布盛地区の漁港拡張等を令和12年度完了に向けて推進する。</p>
<b>4. 関連事業の進捗状況</b>	
	<p>浜松地区では突堤や拡張部の整備に伴い、港内の静穏度が向上したことにより、漁港内水域でウニやカキの養殖の取組を行っている。</p>
<b>5. 地元（受益者、地方公共団体等）の意向</b>	
	<p>1) 根室市 サケ、コンブ、サンマ等を中心に国内でも有数の漁獲高を誇る地域であり、落石漁港は根室市唯一の第3種漁港として活発に利用されている。地元のサンマ棒受け網漁船は平成29年～令和4年の間に2隻新造し大型化している状況にある。しかしながら、落石地区については、大型化したサンマ棒受け網漁船が係留できる岸壁がないことから近隣の混雑している花咲港への係留を余儀なくされており、落石地区との行き来が生じるなど、非効率な作業となっているため、岸壁の早期整備を強く求めている。また、昆布盛地区については、漁港拡張部の見直しを踏まえた漁港施設の整備を強く求めている。</p> <p>2) 落石漁業協同組合 落石漁協所属のサンマ棒受け網漁船は、大型化により落石地区に係留できないため、準備作業等の際には花咲港との行き来を余儀なくされており、非効率な作業を強いられている。 このため、落石地区において大型サンマ棒受け網漁船が係留可能となる岸壁の早期整備を強く求めている。</p>

6. 事業コスト縮減等の可能性	
	今後の整備では、昆布盛地区において、泊地浚渫土砂を漁港拡張部の埋立材に活用する等、事業コストの縮減に努める。
7. 代替案の実現可能性	
	該当なし。

### Ⅲ 総合評価

<p>落石漁港は、サケ定置網、採藻、タコかご等の沿岸漁業が盛んであり、浜松地区・昆布盛地区で陸揚げされた漁獲物は落石地区に集約され道内外へ出荷する流通拠点となっており、周辺海域を操業する外来漁船の陸揚基地として重要な役割を担っている。</p> <p>このため、落石地区におけるサンマ棒受網漁業の準備・休憩岸壁の整備は地元漁船の安全かつ効率的な利用に寄与するほか、昆布盛地区の港形の見直しは漁業活動の利便性の向上や静穏度向上による安全操業に寄与する事業であると考えられる。</p> <p>事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も1.0を超えていることから、計画を変更の上、事業を継続する必要がある。</p> <p>引き続き、コスト縮減を取り組むとともに、適正な事業費および事業期間の管理に努める。</p>
---

## 費用対効果分析集計表

### 1 基本情報

都道府県名	北海道	地区名	オホシ 落石
事業名	直轄特定漁港漁場整備事業	施設の耐用年数	50年

### 2 評価項目

便益の評価項目及び便益額	評価項目		便益額（現在価値化）	
	便益の評価項目及び便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	3,065,100
②漁獲機会の増大効果			622,876	千円
③漁獲可能資源の維持・培養効果				千円
④漁獲物付加価値化の効果			1,500,004	千円
漁業就労環境の向上		⑤漁業就労環境の労働環境改善効果	249,401	千円
生活環境の向上		⑥生活環境の改善効果		千円
地域産業の活性化		⑦漁業外産業への効果		千円
非常時・緊急時の対処		⑧生命・財産保全・防御効果	2,631,574	千円
		⑨避難・救助・災害対策効果	11,685,010	千円
自然保全・文化の継承		⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果		千円
その他		⑬漁港利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他		千円
計（総便益額）		B	19,753,965	千円
総費用額（現在価値化）		C	15,149,304	千円
費用便益比		B / C	1.30	

### 3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

- ・ 安定した外来船利用により、地元での生活物資や資材の調達及び飲食店利用等の地域経済の振興が図られる。
- ・ 根室地域（落石地区）マリンビジョンと連携した地産地消の推進や地域のPRが図られる。
- ・ 静穏域創出による「つくり育てる漁業」の推進

## 事後評価書（期中の評価）

都道府県名	北海道	関係市町村	<small>ネムロン</small> 根室市	期中評価実施の理由	④
-------	-----	-------	----------------------------	-----------	---

事業名	直轄特定漁港漁場整備事業（直轄漁港整備事業）				
地区名	<small>ハボマイ</small> 歯舞	事業主体	国（北海道開発局）		

### I 基本事項

1. 地区概要			
漁港名（種別）	歯舞漁港（第4種）	漁場名	—
陸揚金額	4,140 百万円	陸揚量	9,484 トン
登録漁船隻数	670 隻	利用漁船隻数	549 隻
主な漁業種類	刺網、サケ定置網、小型定置網、採藻	主な魚種	マダラ、スケトウダラ、サケ類、コンブ類
漁業経営体数	319 経営体	組合員数	429 人
地区の特徴	歯舞漁港（歯舞地区・温根元地区・瑛瑤瑠地区）は、北海道東部根室半島の先端部に位置し、刺網、サケ定置網、採藻漁業などの沿岸漁業の流通拠点、周辺海域で操業する漁船の避難拠点として、重要な役割を担っている。		
2. 事業概要			
事業目的	根室東部圏域の流通拠点漁港として、防波堤の整備により、津波などによる施設災害を未然に防止するための防災対策の強化を図る。また、屋根付き岸壁と一体化した人工地盤の整備により、衛生管理体制を推進する。さらに係留施設等の整備により、係留不足を解消し漁業活動の効率化、安全性の向上を図る。		
主要工事計画	【歯舞地区】東防波堤（改良）205.0m、用地（人工地盤）4,720㎡、 -4.0m岸壁228.0m 【温根元地区】-2.0m航路1式 【瑛瑤瑠地区】-2.0m物揚場339.7m、-3.5m岸壁（改良）90m など		
事業費	11,086百万円	事業期間	平成30年度～令和12年度
既投資事業費	6,277百万円	事業進捗率（%）	57%

### II 点検項目

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化			
	直前の評価	今回の評価	※別紙「費用対効果分析集計表」のとおり
総費用（千円）	6,116,478	11,325,356	
総便益（千円）	7,309,347	14,754,998	
費用便益費（B/C）	1.20	1.30	
総費用の変更の理由			
歯舞地区については、漁船の大型化により-3.5m岸壁を-4.0m岸壁へ増深整備、人工地盤の基礎構造の変更等により、事業費の見直しを行った結果、総費用が増加した。			
便益算定項目について変更がある場合はその項目と変更の理由			
歯舞地区について、-4.0m岸壁整備による準備作業時間の短縮や漁船損傷被害の回避効果等、さらに、人工地盤整備による漁獲物等の高潮被害防止や津波からの人命損失の回避効果を便益として計上した。また、全体便益として、労務単価や漁船建造費等の基礎データ更新により便益が増加した。			
その他費用対効果分析に係る要因の変化			
刺網専業船の準備・休憩岸壁整備について、施工期間の調整により、事業完了年度を変更（平成39年度→令和12年度）した。			

<b>2. 漁業情勢、社会経済情勢の変化</b>	
<b>(1) 漁業情勢及び漁港施設、漁場施設等の利用状況と将来見通し</b>	
	計画策定後の漁業集落に関わる社会経済状況、自然状況の当初想定との相違と将来見通し
	漁港利用漁業者数は、高齢化に伴う廃業等により減少傾向は見られるものの、地域の取組もあり後継者も確保されていることから、今後も同程度に推移すると見込まれる。
	漁業形態、流通形態について当初想定との相違と将来見通し
	歯舞漁業協同組合では、安全・安心な水産物の供給を図るため、衛生管理対策の強化とともに、3地区連携による効率的な漁業活動を推進しており、今後も安定的な漁家経営が見込まれる。
	漁港施設等の利用状況について当初想定との相違と将来見通し
	組合員数が減少傾向にあるものの、改正漁業法により大型化に移行する刺網專業船は令和3年以降9隻が新造される予定であり、今後も安定的な利用が見込まれる。
<b>(2) その他社会情勢の変化</b>	
	特になし
<b>3. 事業の進捗状況</b>	
	令和4年度までに、歯舞地区の衛生管理対策としての屋根付き岸壁の整備や用地不足解消のための人工地盤関連施設が整備され、衛生管理体制の強化や漁業活動の効率化が図られており、事業の進捗率は57%である。残事業として、歯舞地区・瑛瑤瑠地区の係留機能の強化や温根元地区の結氷対策等を令和12年度完了に向けて推進する。
<b>4. 関連事業の進捗状況</b>	
	歯舞地区では人工地盤と一体化した漁協施設として高度衛生管理型市場や防災施設、海業支援施設を整備しており、荷捌き所内の見学、水産物の直売、パノラマクルーズ等の取組を行っている。
<b>5. 地元（受益者、地方公共団体等）の意向</b>	
	<p>1) 根室市  歯舞漁港は、マダラ、カレイ類、コンブ類等を中心に北海道でも有数の漁獲高を誇る漁港であり、歯舞漁協所属の主力漁業である刺網專業船15隻の内9隻は、令和3年以降、新造による漁船の大型化が図られている。しかしながら、歯舞地区には大型化する刺網專業船が係留できる水深の岸壁が不足していることから、準備・休憩作業等が非効率な状況となっており、岸壁の整備を強く求めている。</p> <p>2) 歯舞漁業協同組合  歯舞漁協所属の主力漁業である刺網專業船は歯舞地区の陸揚量の約6割を占めており、地域水産業を支えている。漁船の大型化に伴い必要な水深が-3.5mから-4.0mとなることから、現状、係留できる岸壁が不足しており、準備・休憩作業等の支障となっている。このため、歯舞地区において大型化する刺網專業船が係留可能となる岸壁の整備を強く求めている。</p>

#### 6. 事業コスト縮減等の可能性

今後の整備では、瑠瑤瑠地区において、工事発生材の有効活用として、泊地浚渫した土砂を岸壁背後用地の埋立土として使用する等、事業コストの縮減に努める。

#### 7. 代替案の実現可能性

該当なし。

### Ⅲ 総合評価

歯舞漁港は、刺網、採藻などの沿岸漁業が盛んであり、近隣漁港から漁獲物が集約され道内外の各地に出荷する流通拠点となっており、周辺海域で操業する漁船の避難拠点としても重要な役割を担っている。

このため、歯舞地区において刺網專業船の大型化に対応した準備・休憩岸壁整備は安全かつ効率的な漁業活動に寄与するほか、刺網專業船は年間20億円程の水揚量を誇り、地域経済に与える効果も大きい事業であると考えられる。

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果の投資効果も1.0を超えていることから、計画を変更の上、事業を継続する必要がある。

引き続き、コスト縮減を取り組むとともに、適正な事業費および事業期間の管理に努める。



## 費用対効果分析集計表

### 1 基本情報

都道府県名	北海道	地区名	ハボマイ 歯舞
事業名	直轄特定漁港漁場整備事業	施設の耐用年数	50年

### 2 評価項目

便益の評価項目及び便益額	評価項目		便益額（現在価値化）	
	便益の評価項目及び便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	4,461,020
②漁獲機会の増大効果			375,064	千円
③漁獲可能資源の維持・培養効果				千円
④漁獲物付加価値化の効果			3,184,679	千円
漁業就労環境の向上		⑤漁業就労環境の労働環境改善効果	120,338	千円
生活環境の向上		⑥生活環境の改善効果		千円
地域産業の活性化		⑦漁業外産業への効果		千円
非常時・緊急時の対処		⑧生命・財産保全・防御効果	2,234,593	千円
		⑨避難・救助・災害対策効果	4,379,304	千円
自然保全・文化の継承		⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果		千円
その他		⑬漁港利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他		千円
計（総便益額）		B	14,754,998	千円
総費用額（現在価値化）		C	11,325,356	千円
費用便益比		B / C	1.30	

### 3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

- ・ 人工地盤と衛生管理型市場の一体的整備による衛生管理機能の強化
- ・ 人工地盤・道路整備による漁業地域の安全・安心の確保
- ・ 係留施設整備による持続可能な漁業生産体制の構築
- ・ 人工地盤と漁協施設が連携した海業振興